

鶴見花月園公園 11月1日開園

10:00



どんな公園なのかな？



check!

鶴見区に40年ぶりにできる大きな公園で、総面積はなんと4.7ha。芝生の原っぱや遊具のある広場、健康器具もあります。高台なのでペイブリッジやみなとみらいまで見渡せて眺めも抜群！小さなお子さんからお年寄りまで楽しめる公園です。

Point



大正期、ここは東洋一の遊園地と言われた「鶴見花月園」でした。その後花月園競輪場などの変遷を経て、市と独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）が協力して公園整備を進めてきました。園内にはこの場所の歴史を紹介する解説板もあるんですよ。

中面で全体像を紹介



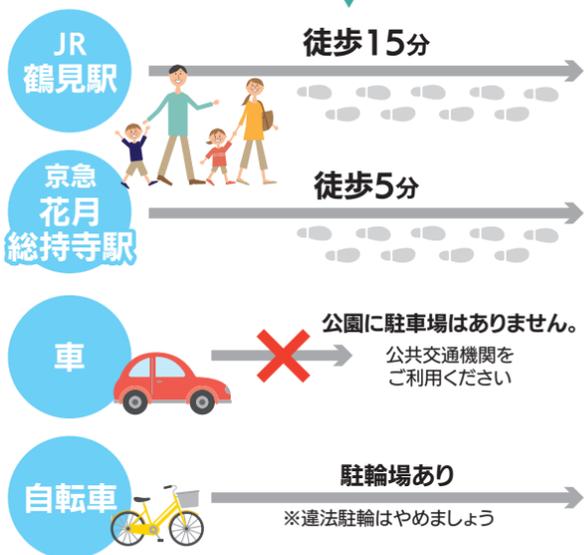
Good!!

歴史をたどりながらめぐるのも楽しそうだね。

花や緑を眺めながら、散歩できるのが楽しみだわ。



交通アクセス



鶴見花月園公園

開園後も引き続き周辺道路の工事を行っています。公園への通行経路については、右図をご参照ください。詳細については、ホームページをご確認ください。



当面の間、ご不便をおかけしますがよろしくお願いします

公園内MAP

今日は何する？どうする？——
「憩う」「遊ぶ」「鍛える」「学ぶ」「感じる」etc
十人十色の公園ライフ。さて、あなたはどの楽しむ？



- 駐輪場
- トイレ
- 車いす対応
- オストメイト
- ベビーチェア
- ベビーシート



展望台(東屋)

東屋になっている展望台。横浜港や東京市街、富士山、房総半島まで見晴らせたという遊園地時代。新公園からもランドマークタワーやベイブリッジなどがはっきりと見えます。



健康器具

大原っぱをぐるりと囲むように配置された大人用健康器具。ストレッチ、トレーニング、クールダウンと用途別に12種類。ウォーキングとあわせながら体力増強、好きな器具だけ取り組んで健康維持など、自分の体力にあわせて楽しく健康に。

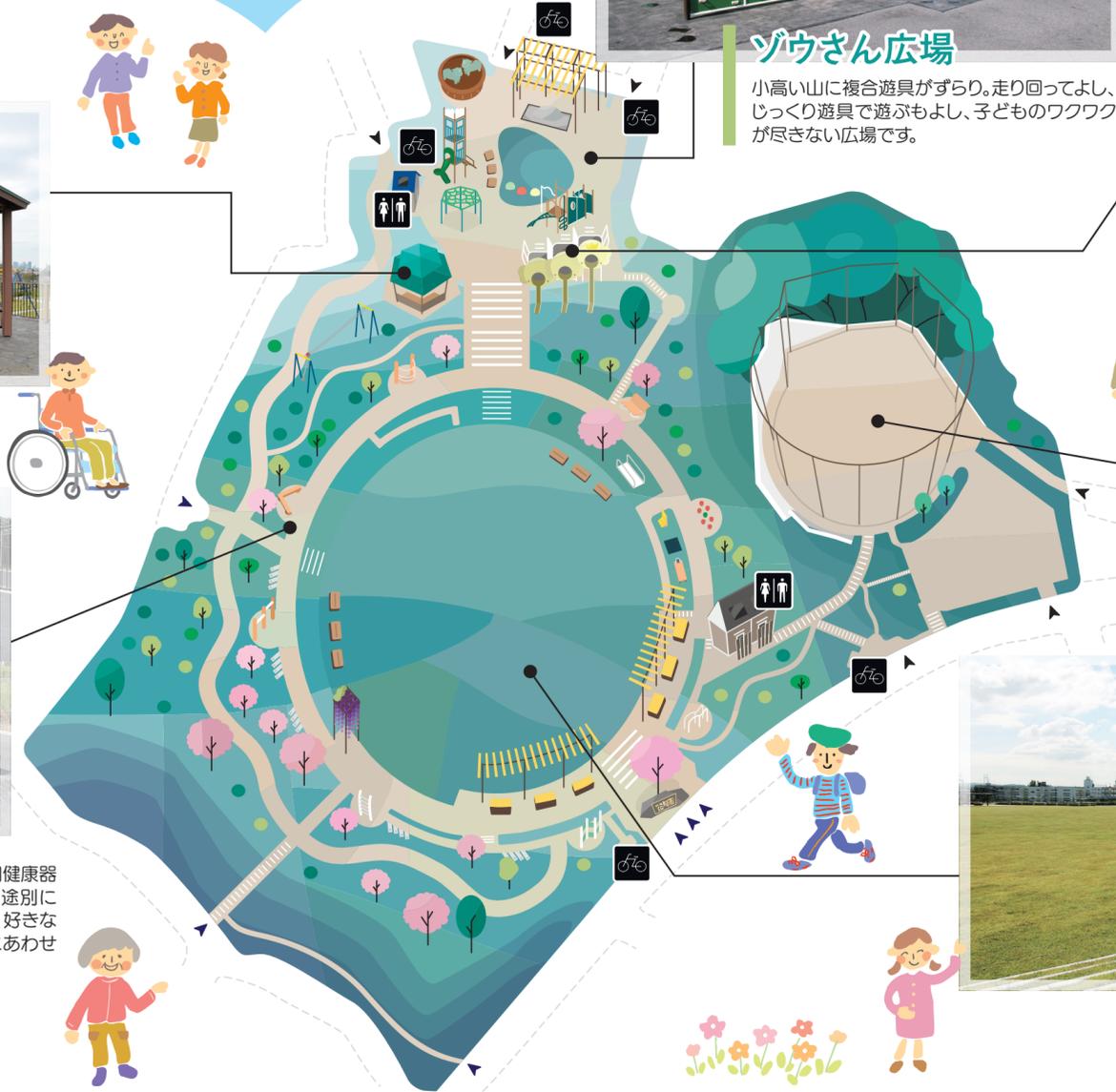


歴史を継承



桜の木と藤棚

競輪場時代の桜並木から桜を3本、藤の木を1本移植しました。あの日の記憶を宿し、新たな芽吹きを待ちます。



ゾウさん広場

小高い山に複合遊具がずらり。走り回ってよし、じっくり遊具で遊ぶもよし、子どものワクワクが尽きない広場です。



遊具

ゾウさん3連スライダーをはじめ、ジャングルジムやうんてい、砂場など約10種類の遊具が幼児から小学生まで年代別に配置され、安心して楽しめます。



多目的広場

ボールを使ったスポーツなどを楽しむことができる土のグラウンドです。野球やサッカーの公式試合をするにはちょっと小さいですが、練習などに活用できます。



大原っぱ

1周400メートルの広さを誇る平面の芝生の原っぱ。寝ころべば空だけ、風が心地よく自然を体感。ひとりでのんびり、友人とわいわい、家族でアクティブに。



防災設備が充実！ 安心、安全の公園です～

こんにちは、UR都市機構です！鶴見花月園公園は、横浜市からの要請を受け、「防災公園街区整備事業*」という事業手法で整備を行いました。地域のみなさまと対話を重ね、「地域のみなさまの憩いの場」「地域の歴史の継承」「防災機能の確保」を盛り込んだ公園づくりを目指しました。



マンホールトイレ

災害時には、下水道管に直結した穴に仮設の便器と個室を設置して使うことができます。汚物は、貯水槽とサブタンクから供給される井戸水で排水されます。



かまどベンチ・スツール

かまどベンチは、中にかまどが収納されているベンチです。災害時には、45Lの鍋2つを用いた場合、約300人前の汁物を調理できます。かまどスツールはかまどが移動可能で、薪のほか、炭や固形燃料も使えます。



パーゴラ

災害時には、ベンチに収納してあるテントシートで屋根から覆うことができ避難所としてだけでなく、支援拠点や救済物資の仕分け場、雨風をしのぐ場として使うことができます。



井戸

電動の水ポンプで地下水をくみ上げます。貯水槽へ給水し、マンホールトイレの水洗用水や消防水利として使うことができます。



街に、ルネッサンス
UR 都市機構



*防災公園街区整備事業とは、災害に対し脆弱な構造となっている大都市地域等の既成市街地において、防災機能の強化を図ることを目的として、工場跡地等を活用して、防災公園と周辺市街地の整備改善とを一体的に実施する事業です。UR都市機構では、地方公共団体からの要請に基づき、全国各地でこの事業を実施しています。

花月園の歴史

東洋一の遊園地から競輪場、
そして防災公園へ――

花月園遊園地(1914(大正3)年～1946(昭和21)年)

日本最初の児童遊園地

花月園遊園地は、新橋の料亭花月楼の主人平岡廣高・静子夫妻が、ヨーロッパ旅行中に訪れたすべてが児童本位だったパリ郊外の遊園地をモデルに、子どもの健全育成と体位向上を目的として、東福寺境内3万坪を借りて1914(大正3)年5月に開園した日本で最初の児童遊園地です。

はじめは、ブランコやシーソー、木馬など小型の遊具だけでしたが、メリーゴーランド、サークルグウエーブ、豆汽車、起伏にとんだ地形を生かした長さ50メートルの3連の大山すべり、大つり橋、登山電車など当時としてはすべてが珍しい最新式の遊具やスリル満点の施設を次々につくったので、子どもたちは大喜びでした。

新しい文化の創造

野外劇場では小山内薫作・演出、二代目市川猿之助(初代猿翁)主演の野外劇や山田耕筰指揮の演奏会、石井漠の創作舞踊会なども開催し、新しい文化の創造にも力をいれました。

1920(大正9)年には、日本初の営業用ダンス

ホールが開場。華やかな舞踏会が開かれました。谷崎潤一郎の『痴人の愛』や里見淳の『多情仏心』でも広く知られるようになりました。国際児童絵画展発祥の地でもあり、「東の宝塚」と称された花月園少女歌劇も人気を博しました。

園内には、吉野桜の苗木1万本も移植し、桜の名所となり、1日7万人もの花見客でにぎわいました。1925(大正14)年のピーク時には、東台の花月園

ガーデンまで入れて7万坪に拡充し、西洋式花壇やアルプス登山遊戯場、飛行船、観覧車など大型遊具や屋内アイススケート場、温水プール、テニスコートなどの最新施設を設置し、名実ともに「東洋一の遊園地」となりました。

さまざまな大輪の文化の華を咲かせ、東洋一を誇った花月園遊園地は第二次世界大戦で荒廃し、戦後はわずかに残された施設で小規模に再開しましたが、1946(昭和21)年11月に鶴見都市美協会が主催した「鶴見十景絵画展」を最後に、遊園地の幕を閉じました。



観覧車



新公園の3連スライダーのモチーフとなった大山すべり



こどものおひげ



東の宝塚と称された花月園少女歌劇団



電気豆汽車



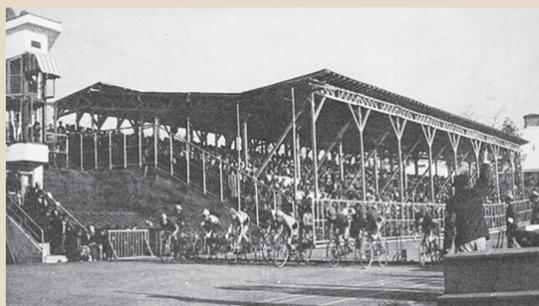
教えてくれたのは、鶴見歴史の会の会員で『鶴見花月園秘話 東洋一の遊園地を創った平岡廣高』の著者でもある齋藤美枝さん

花月園競輪場(1950(昭和25)年5月～2010(平成22)年3月)

花月園遊園地の閉園後、1950(昭和25)年に開場したのが「花月園競輪場」です。運営は神奈川競輪(株)(現花月園観光(株))。場外施設を除くと、横浜市内で唯一の公営競技場として、スポーツ振興、地方財政にも寄与しました。

京浜工業地帯が隆盛だった当時、娯楽施設として市民にも広く親しまれました。平成以降にはG1と呼ばれる全日本選手権や、オールスターレースなど、ファン垂涎のビッグレースも多数開催。その一方で、不景気や人気の低迷により売上はピーク時の5分の1以下となり、2010(平成22)年に60年の歴史に幕をおろしました。

バンクは1周400mで、総収容人数約2万5千人。伊丹十三監督作『マルサの女』のクライマックスシーンのロケ地や、鶴見区制80周年のメインイベント会場としても使用されました。



2015(平成27)年、解体直前に行われたイベント「さよなら花月園競輪場」でのラストランの様子

競輪場時代の一枚
(花月園観光(株)発行『花月園観光三十年史』より)

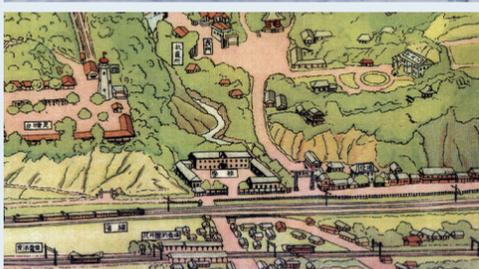
土地の記憶～こぼれ話～

鶴見の中心地だった!?生見尾のころ

さまざまな文化を育んだ花月園の歴史を持つこの土地は、1927(昭和2)年に横浜市に区制がしかれ鶴見区が誕生するよりも昔、神奈川県橋本郡生見尾村として栄えた時代がありました。生見尾村は、1889(明治22)年の市町村制の施行により、生麦村、鶴見村、東寺尾村の3村が合併したものです。

1894(明治27)年には、当時村内にあった生麦尋常小学校、鶴見尋常小学校が統合され、花月園入り口付近に生見尾小学校が開校しました。これが東台小学校の前身となります。東台小学校同窓会では、前身となる生見尾小学校の記憶を残すための石碑設置(同窓生宅)など、未来へとつなぐための活動をしています。

生見尾小学校の校舎
(東台小同窓会提供)



1925(大正14)年の絵図(齋藤美枝さん提供)。中央が学校



鶴見花月園公園
横浜市鶴見区鶴見一丁目1番1

注意事項

- ①ゴミは持ち帰りましょう。
- ②犬のフンは飼い主が責任をもって持ち帰りましょう。
- ③自動車やバイクを乗り入れることはできません。
- ④自転車は降りて通行してください。利用時は駐輪場をご利用ください。
- ⑤ボール遊びをするときは、ほかの利用者に注意し、ボールが公園の外に飛び出さないようにしましょう。
- ⑥バーベキューはできません。
- ⑦騒音を出したり、騒ぐことは、周りの方の迷惑になります。特に早朝・夜間は注意しましょう。
- ⑧樹木や草花、公園の施設を大切にしましょう。

問い合わせ

公園の利用については
鶴見土木事務所 ☎045・510・1669